

平成16年3月期 決算説明会

平成16年5月18日
日本証券金融株式会社



当期決算のポイント

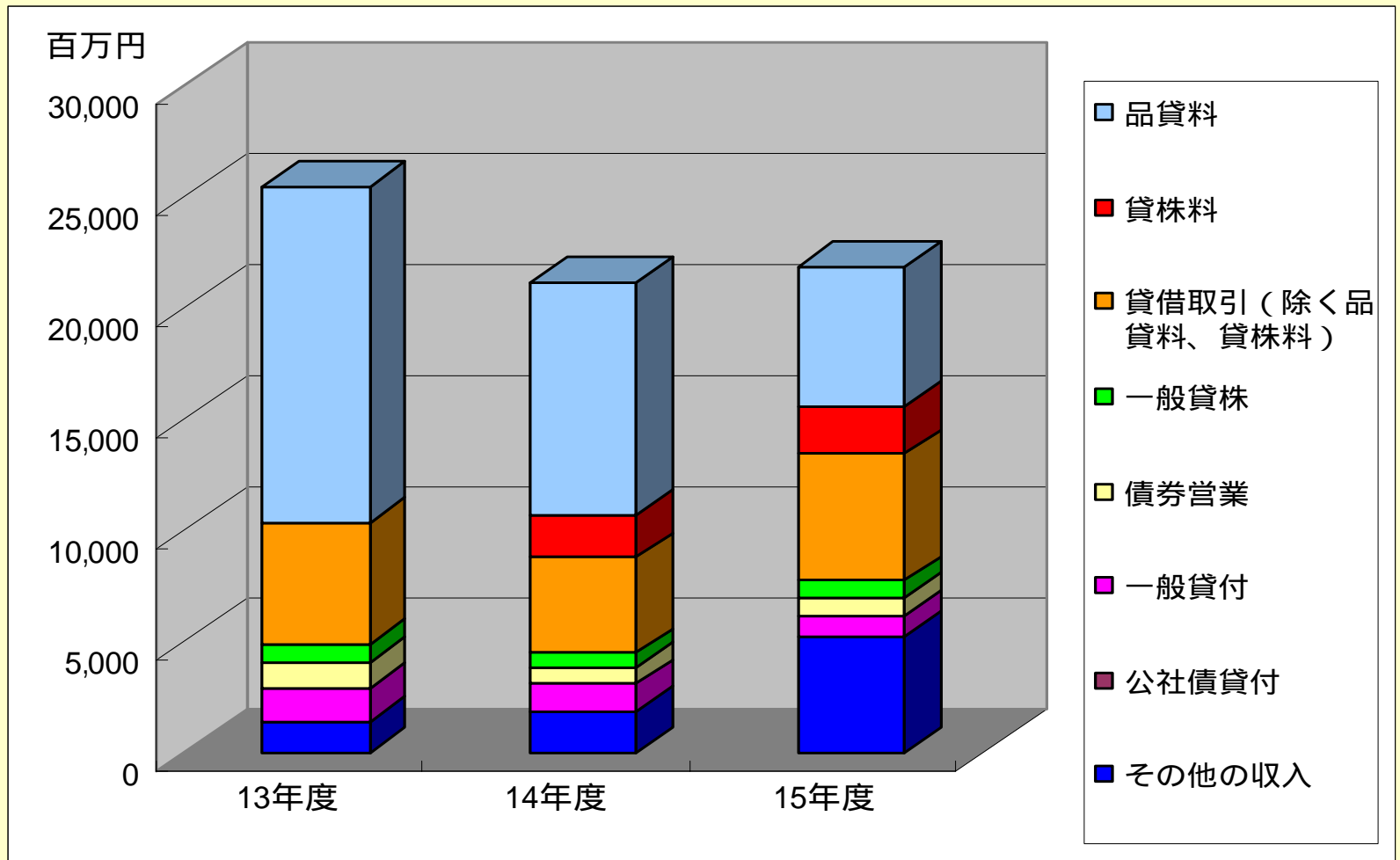
1. 貸借取引残高の回復
2. 国債運用の実現益と評価損
3. 特別損益の影響軽微
4. 連結対象会社の影響

単体決算の状況

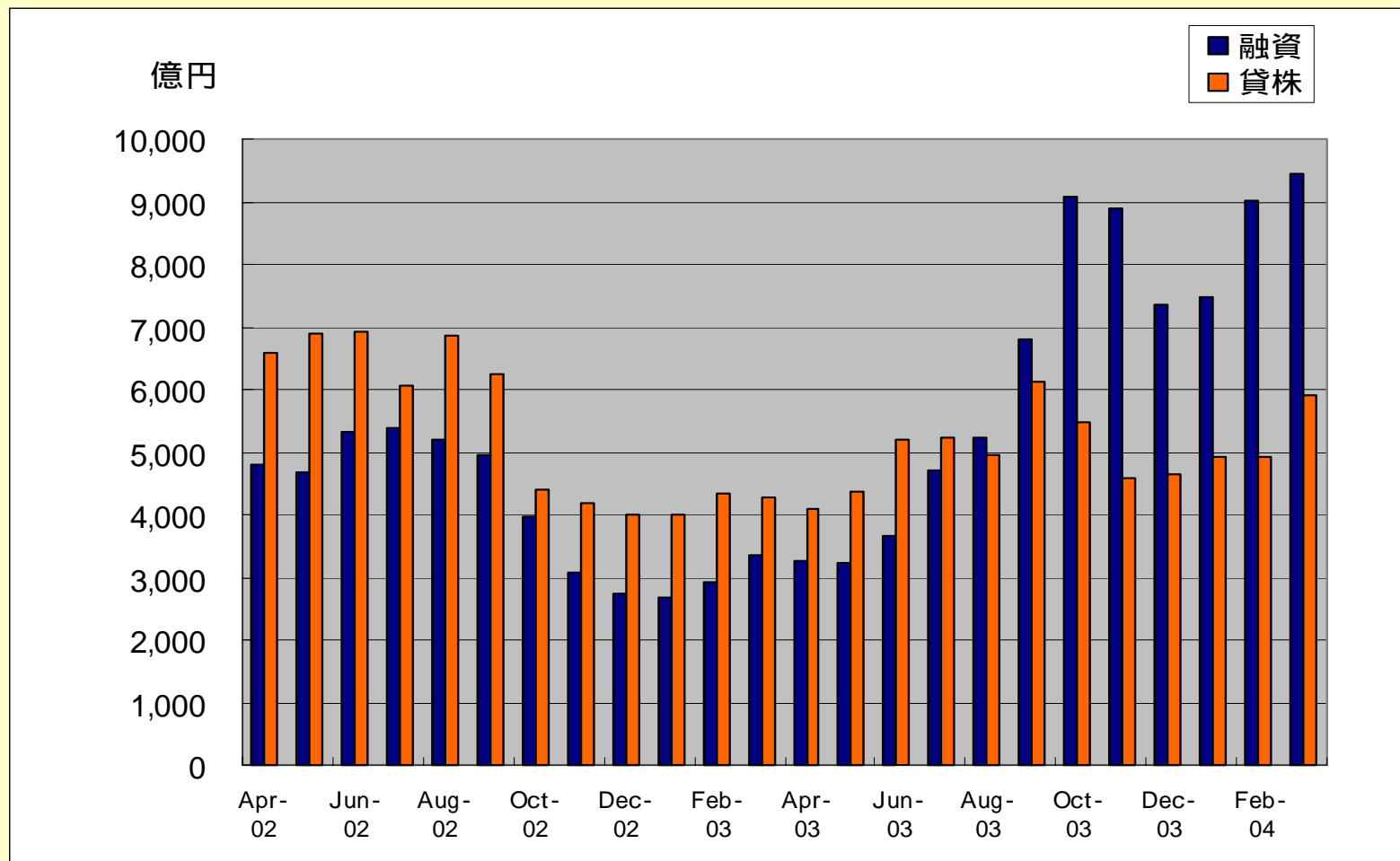
単位:百万円

	当 期	前 期	比 較
営業収益	21,880	21,190	690 (3.25%)
除く品貸料	15,557	10,721	4,836 (45.11%)
経常利益	2,678	2,679	1 (0.04%)
当期純利益	1,786	957	829 (86.59%)

部門別営業収益の推移



貸借取引月別平残推移





保有国債の運用益と評価損

- 株式市場低迷 + 短期金利の超低金利による貸借取引部門の収益低迷

前下期から当上期にかけて保有国債の期間長期化により収益補完

- ◆ 当期約6億円の運用益(前期約14億円)
- 長期金利上昇により評価損発生
- ◆ 16年3月末評価損 約103億円

保有日本国債の残高推移

■ 国債の残存期間別残高と評価損益の推移

単位:億円

	14/9末	15/3末	15/9末	16/3末
国債残高	9,964	12,099	11,059	11,722
残存1年以内	8,492	7,539	5,771	7,019
残存1年超	1,472	4,560	5,287	4,703
評価損益	22	55	147	103

特別損益の影響

- 当期は特別損益の影響が軽微

単位:百万円

		当期	前期	増減
特別 損益	投資有価証券売却益	337	222	114
	投資有価証券売却損	4	559	554
	投資有価証券評価損	-	1,183	1,183
	その他共合計	322	1,089	1,411



連結会社の概況

■ 子会社

日証金信託銀行

増収増益

日本ビルディング

順調

ジェイエスフィット

横ばい

■ 持分法適用会社

日本証券代行

営業赤字・最終黒字

日本電子計算

減収・最終赤字

日証金信託銀行の概況

単位:百万円

	当期	前期	増加額
経常収益	4,711	3,132	1,579
経常利益	3,228	2,091	1,136
当期純利益	1,947	1,210	736

- 債券(主に国債・金融債)運用益の寄与
- 貸出や短期金融市場での運用も順調



日証金信託銀行の業務展開

- 貸出金は貸付手法を多様化し、増加
政府保証付き貸出やシンジケート・ローンへの
取組
- 中期国債への投資増加
- 顧客分別金信託・・・受託社数トップ、金額倍増
- 有価証券運用信託は横ばい、依然低水準

連結決算の状況

単位:百万円

	当 期	前 期	比 較
営業収益	30,896	28,661	2,234 (7.79%)
除く品貸料	24,573	18,192	6,381 (35.08%)
経常利益	6,548	4,719	1,829 (38.75%)
当期純利益	4,001	1,746	2,255 (129.15%)



貸借対照表のポイント

- 当社単体 決算短信：P26, 27
 - ・「貸借取引貸付金」の増加
 - ・貸借取引利用上昇に伴う有価証券勘定の増加
 - ・「その他有価証券評価差額金」の減少
- 日証金信託銀行 決算概況：P8, 9
 - ・「有価証券」「貸出金」の増加
- 連結ベース 決算短信：P9, 10



損益計算書のポイント

- 当社単体 決算短信:P28
 - ・「貸付金利息」の増加、逆日歩の減少
 - ・国債運用による営業損益の部の「その他」勘定の増加
 - ・「特別損失」の減少
- 日証金信託銀行 決算概況:P10
 - ・「貸出金利息」「有価証券利息配当金」の増加
- 連結ベース 決算短信:P11



自社株買いの状況と対応

- 当期の買付

株数

2,068千株

取得価額

1,068百万円

- 今後の方針

商法改正により「定款授權に基づく取締役会決議による自己株式取得制度」を採用する予定

次期の見通し(単体)

単位:百万円

	次期予想	当期実績	比較
営業収益	21,000	21,880	880
経常利益	3,600	2,678	921
当期純利益	2,500	1,786	713

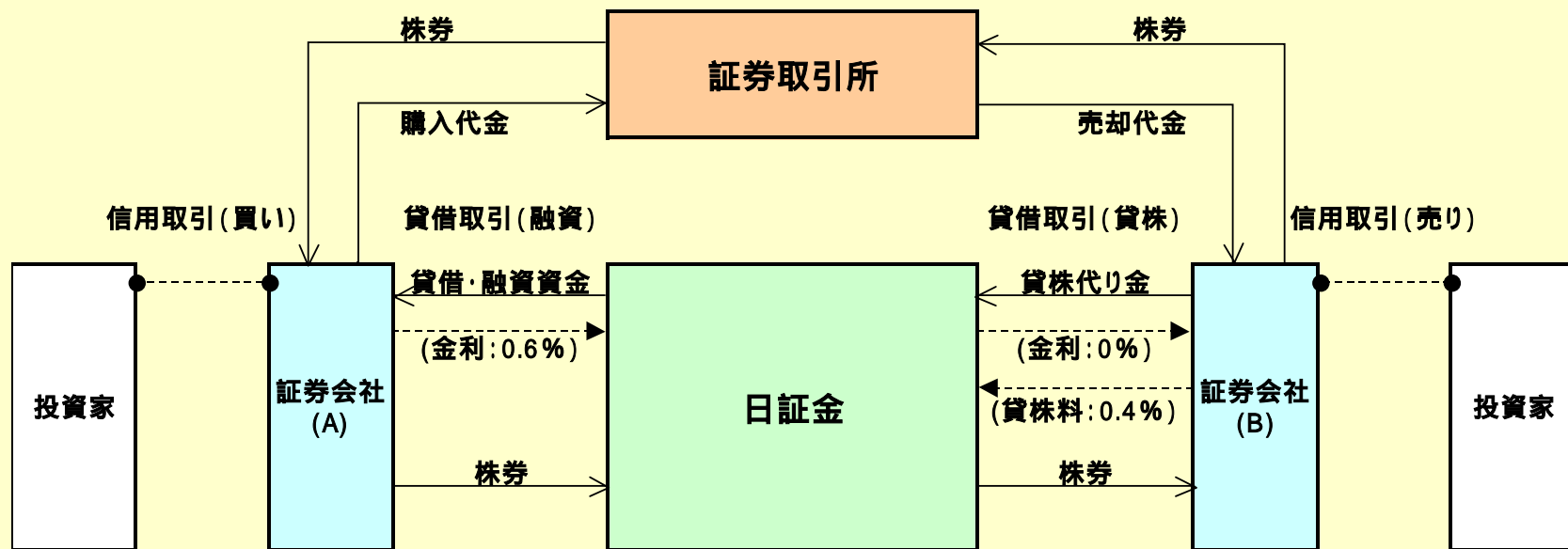
次期の見通し(連結)

単位:百万円

	次期予想	当期実績	比較
営業収益	30,000	30,896	896
経常利益	5,900	6,548	648
当期純利益	3,300	4,001	701

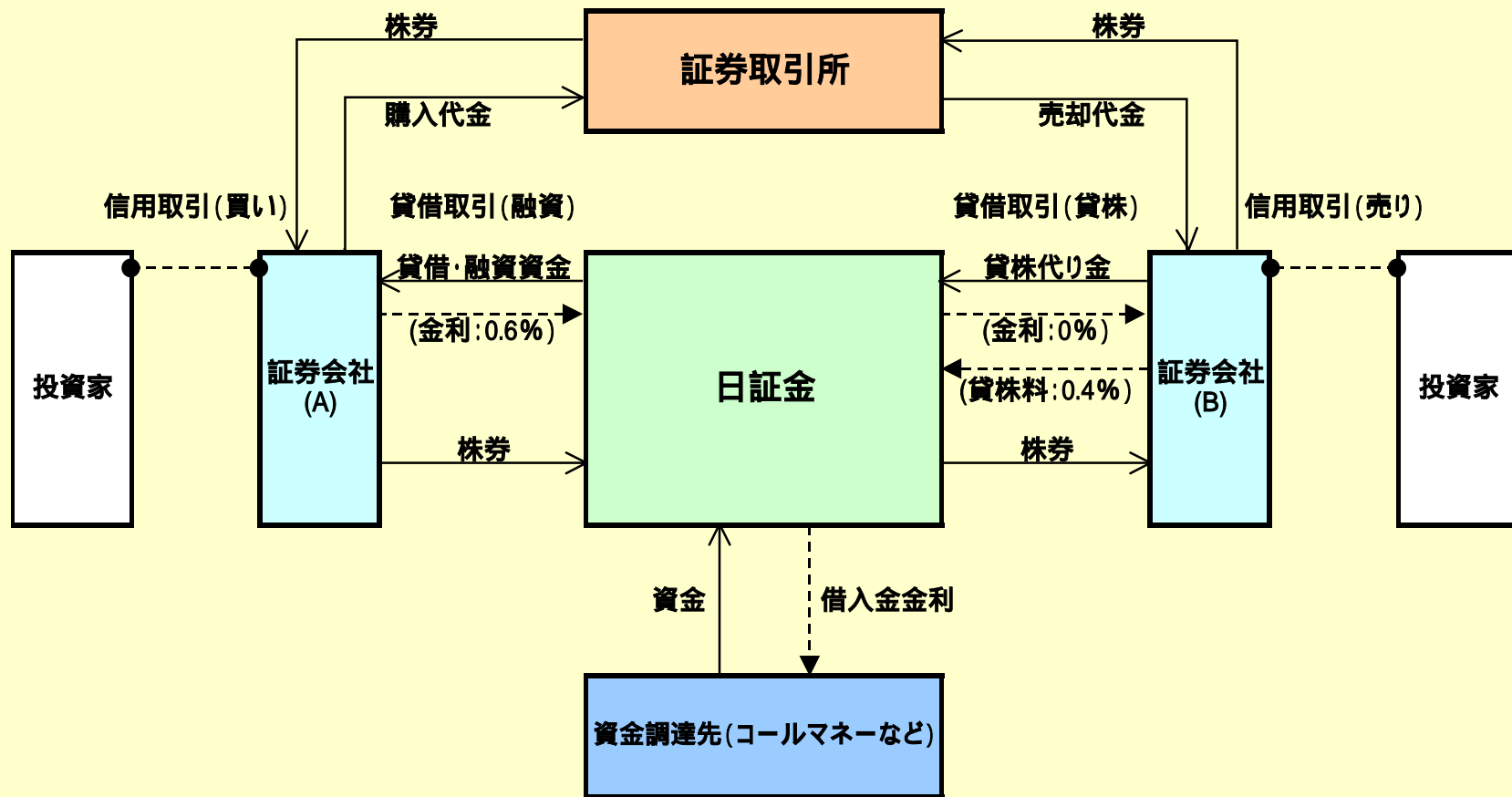
貸借取引のスキーム図(1)

融資・貸株同額の場合



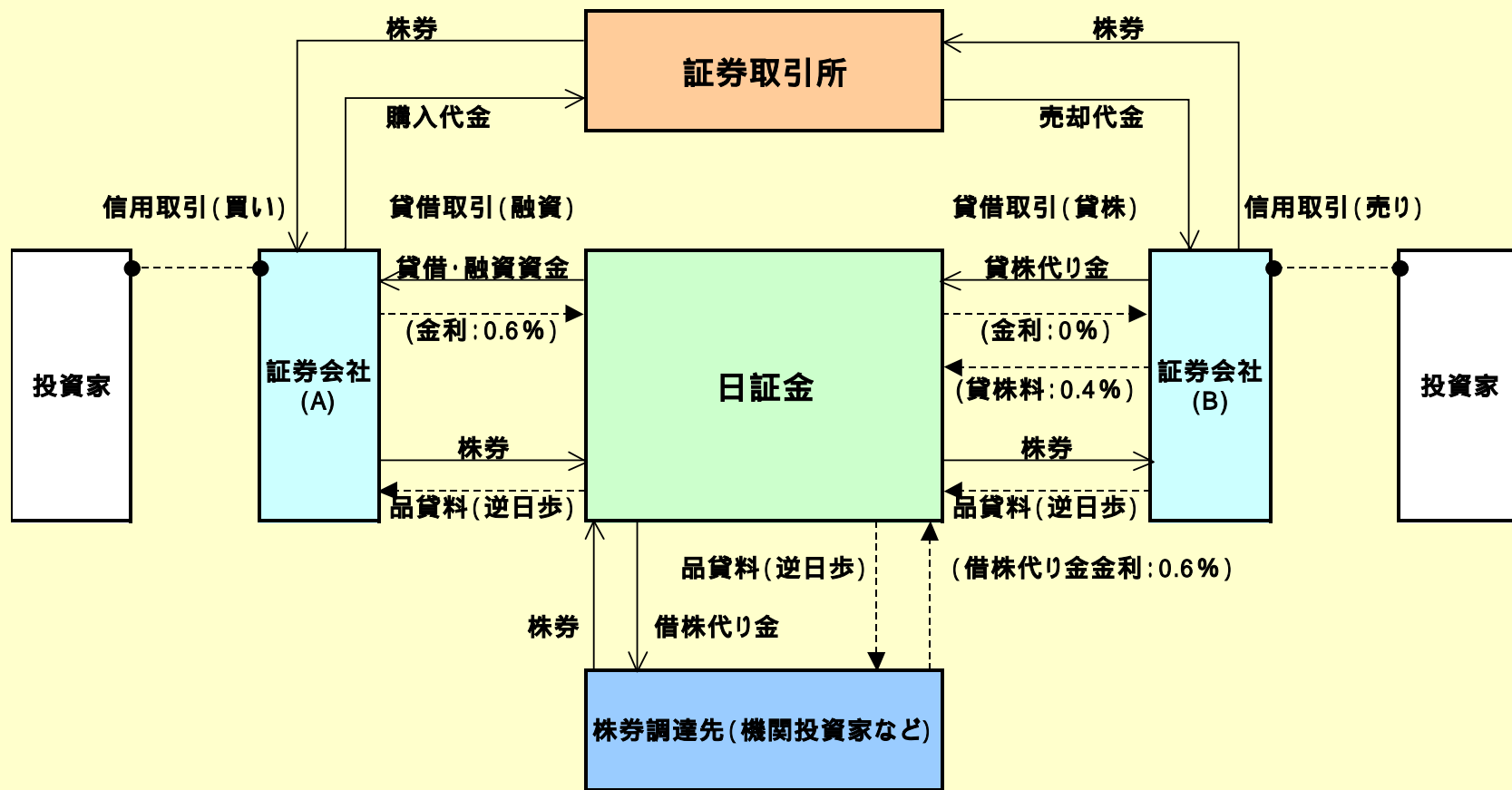
貸借取引のスキーム図(2)

融資超過の場合



貸借取引のスキーム図(3)

貸株超過の場合





当社の現状と今後の課題

日本証券金融株式会社

取締役社長 小島 邦夫



当社の現状

- ◆ 株式市場の回復に伴い貸借取引は順調に増加
- ◆ 懸案事項の解決
 - ジャスダック市場への貸借取引導入
 - 日証金ネット(新オンラインシステム)稼働



今期の見通しと課題

- ◆ 株式市場の見通し
- ◆ 金融政策の行方 - 金利、流動性
- ◆ 課題
 - 貸株業務の強化
 - 一般信用への対応
 - 決済システム改革への対応

信用取引(制度・一般)の残高推移(東京市場)

単位:億円

年月 最終週末 (申込日)	制度信用取引		貸借取引				一般信用取引			
	買残高 a	売残高 b	融資残高		貸株残高		買残高		売残高	
			c	c/a	d	d/b		信用取引 占有率		信用取引 占有率
H11年	35,425	5,321	15,005	42.4%	3,396	63.8%	26	0.1%	-	-
H12年	18,346	5,922	5,655	30.8%	4,446	75.1%	3	0.0%	26	0.4%
H13年	9,367	9,507	3,166	33.8%	7,721	81.2%	1	0.0%	441	4.4%
H14年	8,105	5,056	2,761	34.1%	3,802	75.2%	0	0.0%	1,401	21.7%
H15年4月	9,202	5,518	3,293	35.8%	4,124	74.7%	0	0.0%	1,686	23.4%
H15年5月	9,167	6,228	3,317	36.2%	4,726	75.9%	1	0.0%	1,778	22.2%
H15年6月	10,240	6,542	4,095	40.0%	5,039	77.0%	3	0.0%	1,848	22.0%
H15年7月	12,768	6,535	4,994	39.1%	4,907	75.1%	2	0.0%	1,880	22.3%
H15年8月	14,237	7,206	5,795	40.7%	5,532	76.8%	212	1.5%	1,924	21.1%
H15年9月	17,700	6,513	8,218	46.4%	5,016	77.0%	395	2.2%	1,891	22.5%
H15年10月	21,815	6,522	9,880	45.3%	4,742	72.7%	543	2.4%	1,944	23.0%
H15年11月	19,377	6,373	7,678	39.6%	4,497	70.6%	491	2.5%	2,029	24.1%
H15年12月	18,158	6,240	6,945	38.2%	4,490	72.0%	482	2.6%	2,207	26.1%
H16年1月	20,626	6,902	8,846	42.9%	4,787	69.4%	609	2.9%	2,218	24.3%
H16年2月	20,528	7,295	8,767	42.7%	5,423	74.3%	662	3.1%	2,284	23.8%
H16年3月	21,602	7,442	11,006	50.9%	6,052	81.3%	861	3.8%	2,176	22.6%



注意事項

本資料には、業績予想に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確定要因を内包するものです。将来の業績は、株式市況・金融情勢などにより、大幅に異なる可能性があります。